



KRICEキャンパス鹿児島

授業交流(単位互換) コーディネート科目

令和5年度

受講生募集!!

鹿児島大学会場
鹿屋体育大学会場
鹿児島国際大学会場
志学館大学会場
鹿児島県立短期大学会場 等

授業科目

1. 方言コンテンツを作ろう
2. 運動部活動の社会科学
3. 異文化コミュニケーション論
4. ことば・文化・こころ・教育
5. 法学特殊講義II
6. 人間と文化
7. かごしま教養プログラム
8. かごしまフィールドスクール

開設大学

- 鹿児島大学
鹿屋体育大学
鹿児島国際大学
鹿児島純心大学
志学館大学
鹿児島県立短期大学
県内7大学等
県内7大学等

■学生の皆様へ

- ・学校によっては取扱いに違いがありますが、単位を修得すれば、所属大学等の単位として認められますので、申し込む前に所属大学等に確認してお申し込みください。
- ・この他にも多数の単位互換科目がありますので、詳しくは、所属大学等へお問い合わせください。
- ・開設大学と開設場所は、異なることがあります。

■一般の皆様へ

- ・左記5の科目は、一般の方も無料で聴講できます。授業科目開設大学へお気軽にお問い合わせください。(単位認定や修了書の発行はいたしませんので、ご了承ください。)

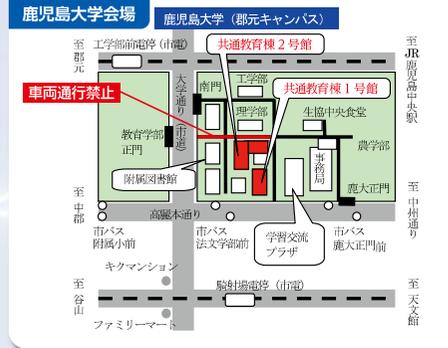
主催：大学地域コンソーシアム鹿児島
連絡先：鹿児島大学学生部教務課教務係

〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30
TEL:099-285-7351 FAX:099-285-8808
E-mail:kkyoumu@kuas.kagoshima-u.ac.jp

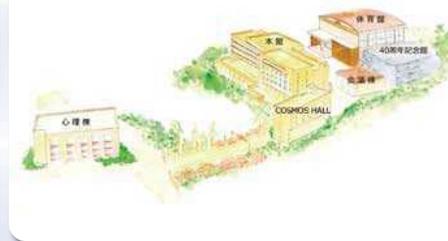
全科目に共通のお知らせ

■ 教室の収容人員の関係で、定員に達し次第締め切らせていただきます。 ■ 各会場へは、公共交通機関でお越しください。

会場のご案内



志学館大学会場



鹿屋体育大学



鹿児島国際大学会場



鹿児島県立短期大学会場



「KRICEキャンパス鹿児島」について

「KRICEキャンパス鹿児島」は、鹿児島県内の6大学、4短期大学及び1高等専門学校が実施している単位互換制度です。(注1)
「KRICE」は、Kagoshima (鹿児島) Regional (地域) Intercollegiate (大学間) Credit (単位) Exchange (互換) の頭文字をとった名称です。
この単位互換制度は、各参加大学等が提供している地域性や独自性豊かな特色ある授業科目の中から、希望する科目を、科目開設大

学等(注2)で履修し、修得すれば所属大学等において単位として認定されます。
なお、検定料、入学科及び授業料は無料です。(但し、科目により所定の実習費等が必要な場合があります。)
また、コーディネート科目の他にも多数の単位互換科目がありますので、詳しくは、所属大学等へお問い合わせください。

(注1) 参加大学等：鹿児島大学、鹿屋体育大学、鹿児島国際大学、鹿児島純心大学、志学館大学、第一工科大学、鹿児島県立短期大学、鹿児島純心女子短期大学、鹿児島女子短期大学、第一幼児教育短期大学、鹿児島工業高等専門学校

(注2) 科目開設大学等：単位互換制度に伴い、授業科目を提供する大学等

大学地域コンソーシアム鹿児島

連絡先：鹿児島大学学生部教務課教務係
TEL:099-285-7351 FAX:099-285-8808

科目名 方言コンテンツを作ろう

授業概要 この授業では、方言記録保存活動の一環として、フィールド調査に基づいて方言動画を作成し、配信することを目指す。

現在、鹿児島県内の方言は、消滅の危機に瀕している。その土地のことばは、その土地の文化財であり、保護し保っていく努力が必要である。

この授業では、鹿児島県内の方言を使用した動画を作成し、方言の記録保存（アーカイブ化）をおこなう。まず、フィールドで取材と撮影をおこない、動画の素材を得る。そして、その動画を方言ベースで編集する。方言の録音、標準語訳、方言解説は、ネイティブへの調査に基づいておこなう（方言調査）。



▲ 動画作品

これらの作業を通して、言語文化への理解を深めながら、地域課題の解決に向けて自ら行動できる力を身につける。授業のスケジュールは、受講生と取材先と相談のうえ決定する。

<参考> 昨年度実施した動画作品が閲覧できます。

- 学習目標**
- ・言語文化への理解を深める。
 - ・言語の記録保存によって研究貢献および地域貢献をおこなう。
 - ・地域課題の解決に向けて、自ら判断して活動できるようになる。

- 授業計画**
- ・事前学習①ー概要説明、フィールド決め、アポイントメント取り等ー
 - ・フィールド調査
 - ・事後学習①&事前学習②ー動画編集作業、方言調査準備ー
 - ・方言調査
 - ・事後学習②ー方言ナレーション、字幕、方言解説の編集ー
 - ・成果発表ー発表会、完成動画のネット配信ー

試験・評価方法 授業への参加、課題への取り組み(50%)、成果物(50%)

担当教員 坂井 美日

開講場所 鹿児島大学郡元キャンパス(教室が決まりしだい、お知らせします。)

開講期間 令和5年度前期(8月～9月を中心に、受講生および取材先と相談のうえ決定する)

開講時間 受講生および取材先と相談のうえ決定する

単位数 2単位

成績発表時期 12月中旬

定員 15名
受講希望者が定員を超えていた場合は、選考をおこなう。

対象 ◆ 鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生[大学の学生(専攻科生、大学院生は含まない)、短期大学の学生(専攻科生を含む)、高等専門学校(4年次生、5年次生及び専攻科生)]

特記事項

- ◆ 一般の方の聴講:不可
- ◆ 申込先:所属大学等
- ◆ 申込期限:7月5日(水)
- ◆ 連絡先:鹿児島大学学生部教務課教務係 電話099-285-7351
- ◆ 対面授業の予定であるが、適宜遠隔(Zoom等)に切り替える。

科目名 運動部活動の社会科学

授業概要 本講義では、学校運動部活動を社会科学の方法を用いて読み解いていく。具体的には、社会科学における経営学、政策学、社会学の3つの分野から運動部活動について考えていく。

学習目標 運動部活動に対して社会科学的なものの見方ができるようになることが目標である。特に、運動部活動をめぐって生じる現象や諸問題について社会科学的な視点から説明ができるようになることを目指す。

- 授業計画**
- 第1回:運動部活動とは何か?
 - 第2回:運動部活動を考えるための理論
 - 第3回:運動部活動の「問題」とは何か?
 - 第4回:運動部活動と地域スポーツクラブ
 - 第5回:「部活ノート」とは何か?
 - 第6回:運動部活動と進路形成①
 - 第7回:運動部活動と進路形成②
 - 第8回:授業のまとめと振り返り

試験・評価方法 授業への参加、提出物、最終レポートを総合的に判断して評価する。

担当教員 栗山 靖弘・関 朋昭・日下 知明

開講場所 鹿屋体育大学 講義棟101教室

開講期間 未定(担当者間で協議して決定)

開講時間 12時間(90分×8回)

単位数 1単位

成績発表時期 10月

定員 10名(応募者多数の場合は抽選により履修者を決定する)

対象 ◆ 県内の大学に在籍する学部学生・大学院生で、学校運動部活動に関心のある方の受講を歓迎します。

特記事項 ◆ 特になし

科目名 異文化コミュニケーション論

授業概要 地球上の誰もが文化の違いを超えて心を通わせ相互に理解しあえる方法があれば、これほど素晴らしいことはないが、現実の世界で起きている様々な出来事を見るにつけ、そんな魔法のような方法はどこにも存在しないことを認めざるを得ない。しかし、私たちが生きている21世紀のグローバル化した世界の持続可能性は、多様な文化の共存を認めあい、異文化間コミュニケーションの困難を克服しようとする各人のたゆみない努力にかかっていることもまた厳然たる事実である。文化とコミュニケーションをめぐる多様な概念を理解した上で、その理解を異文化間コミュニケーションの様々な場面で活用し問題解決を図ることができるマインドセットを身につける。
毎回授業内で小グループに分かれてディスカッションを行い、異なる意見に触れることを通して自分の考えを深めてもらう。授業を通して実際にコミュニケーションスキルが高められるようにする。

- 学習目標**
1. 異文化接触の場面でのようなコミュニケーション不全が起こりうるかを説明できる
 2. 自分自身の文化的背景やその文化の特徴を客観的に把握する
 3. 異なる文化的背景を持つ相手とも積極的に意思疎通を図ることができる
 4. 文化の違いを認めあいながら議論や交渉に参加し自分の意見を述べるができる

- 授業計画**
- 第1回 文化とは?
 - 第2回 文化の可視性と不可視性
 - 第3回 文化的偏見とステレオタイプ
 - 第4回 多民族・多文化・多言語社会
 - 第5回 大学(学校)におけるコミュニケーション
 - 第6回 性別役割分担と異性間コミュニケーション
 - 第7回 シェイクスピアに学ぶ異文化コミュニケーション(1):ジェンダー
 - 第8回 シェイクスピアに学ぶ異文化コミュニケーション(2):エスニシティ
 - 第9回 シェイクスピアに学ぶ異文化コミュニケーション(3):階級
 - 第10回 シェイクスピアに学ぶ異文化コミュニケーション(4):宗教
 - 第11回 メディアと表象
 - 第12回 異文化コミュニケーション論で時事問題を分析する
 - 第13回 ケース・スタディ(1):カルチャーショックと異文化受容
 - 第14回 ケース・スタディ(2):ステレオタイプと偏見を超えて
 - 第15回 まとめ

試験・評価方法 レポート、授業中の意見発表および発言

担当教員 小林 潤司

開講場所 鹿児島国際大学

開講期間 前期集中講義期間中(8月上旬)の4日間

開講時間 9:10~16:10(1限~4限)

単位数 2単位

成績発表時期 9月上旬

定員 20名まで

対象 ◆鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生
[大学の学生(専攻科生、大学院は含まない)、短期大学の学生(専攻科生を含む)、高等専門学校(4年次生、5年次生及び専攻科生)]

特記事項 ◆申込先:単位互換生は所属大学等
◆申込期限:7月14日(金)
◆連絡先:鹿児島国際大学教務課 [電話 099-263-0706]
◆原則、対面授業ですが、急遽オンライン授業へ切り替わる場合があります。

科目名 ことば・文化・こころ・教育

授業概要 講義ごとに「ことば・文化・こころ・教育」にかかわるテーマを扱い、学生自身が主体的に考え、広い視野と考察する力を身に付ける。

- 学習目標** 大学における学修の姿勢や方法、多様な観点や考察する力を身に付けることがねらいである。
1. 学んだことを基に自分の意見を述べるができる。
 2. 大学における学修する力を身に付け、自身の学修に活かすことができる。

- 授業計画**
- ① 情報を「認知」する心理学【楠瀬 悠】
 - ② ネットの情報。それホント?【寺田 将春】
 - ③ やる気を引き出すまほうのしつもん【幸 聖二郎】
 - ④ 子どもの遊びと保育【前田 真奈美】
 - ⑤ 考え方のクセについて【笹川 裕美】
 - ⑥ コーパスからわかること、わかりそうなこと【川村 晃市】
 - ⑦ 奄美の音楽文化【遠藤 武夫】
 - ⑧ アメリカ文化入門【三間 美知太郎】

試験・評価方法 講義ごとの課題による総合評価とする。

担当教員 人間教育学部教員8名によるオムニバス形式

開講場所 鹿児島大学都元キャンパス共通教育棟1号館4階common room 3

開講期間 9月~12月の土曜日、1講義2コマの全16コマ

開講時間 1日1講義(2コマ)【午前】9:00~12:10
1日2講義(4コマ)【午前】9:00~12:10、【午後】13:00~16:10

単位数 2単位

成績発表時期 2月中旬

定員 15名程度(受講者5名未満の場合は開講しません)

対象 ◆鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生
[大学の学生(専攻科生、大学院は含まない)、短期大学の学生(専攻科生を含む)、高等専門学校(4年次生、5年次生及び専攻科生)]

特記事項 ◆特になし

科目名 法学特殊講義Ⅱ

授業概要 法学検定試験ベーシック<基礎>コース合格を目標として、試験科目である民法(物権、債権、親族・相続)及び刑法(総論)の基礎を学びます。

学習目標 ① 法についての基本的な知識を修得する。
② 問題演習を通じて実践的な知識を修得する。

授業計画

- ① ガイダンス、物権(物権変動と対抗要件)
- ② 物権(所有権、担保物権)
- ③ 債権(総論)
- ④ 債権(多数当事者間の債権債務関係)
- ⑤ 債権(不法行為)
- ⑥ 親族(基本概念、婚姻・離婚)
- ⑦ 親族(親子、相続)
- ⑧ 刑法(刑法基礎、刑罰論)
- ⑨ 刑法(罪刑法定主義)
- ⑩ 刑法(構成要件該当性①)
- ⑪ 刑法(構成要件該当性②)
- ⑫ 刑法(構成要件該当性③)
- ⑬ 刑法(違法性)
- ⑭ 刑法(有責性)
- ⑮ まとめ

試験・評価方法 4日間の講義後、翌週月曜日に試験を実施。成績評価は試験100%。

担当教員 佐藤 由佳

開講場所 志學館大学本館

開講期間 8月22日(火)～8月25日(金)、8月28日(月)

開講時間 9:00～16:10(1限～4限)

単位数 2単位

成績発表時期 9月上旬

定員 50人

対象 ◆ 鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生[大学の学生(専攻科生、大学院生は含まない)、短期大学の学生(専攻科生を含む)、高等専門学校(4年次生、5年次生及び専攻科生)
◆ 一般の方(上記以外)、ただし、単位認定なし。

特記事項 ◆ 開講期間の8月28日(月)は、試験のみ実施
◆ 一般の方の聴講:可
◆ 申込先:単位互換生は所属大学等、一般の方は下記連絡先
◆ 連絡先:志學館大学学務課【電話 099-812-8503】

科目名 人間と文化

授業概要 県立短大3学科の教員7名が、それぞれの分野から、さまざまな地域・時代における「文化」を、異なる角度から考察します。1週間という集中した期間に、多角的な知見を学ぶことで、受講生にとって、時代と社会の趨勢を理解する幅広い教養を身につけることを期待します。
(9/13、9/14、9/15、9/19、9/20、9/21、9/22の集中講義。県内大学等のコーディネイト科目であり、他大学等の学生も受講する)

学習目標 【到達目標】人間と文化について学際的に学ぶことにより、さまざまな事象を多面的に考察する姿勢を身につける。

授業計画

- 第1回 薩摩切子(1): はじまりと歴史(坂上)
- 第2回 薩摩切子(2): 色彩とデザイン(坂上)
- 第3回 食生活と文化(1): 日本の食文化(中熊)
- 第4回 食生活と文化(2): 鹿児島の食文化(中熊)
- 第5回 言語と文化(1): 日本語の特徴を概観する(小亀)
- 第6回 言語と文化(2): 平安時代の日本語を読み解く(小亀)
- 第7回 経営組織と文化: 組織文化をマネジメントする(近間)
- 第8回 労務管理と文化: 日本の企業文化と働き方の関係性(近間)
- 第9回 会計と文化(1): 簿記・会計の歴史(宗田)
- 第10回 会計と文化(2): 会計数値から企業の特徴を読み解く(宗田)
- 第11回 教育と文化(1): これまでの教育(田口)
- 第12回 教育と文化(2): これからの教育(田口)
- 第13回 アメリカ文学と文化(1): 詩から19世紀アメリカ文化を知る(小林)
- 第14回 アメリカ文学と文化(2): 小説から20世紀アメリカ文化を知る(小林)
- 第15回 まとめ
(順番、内容を変更することがあります)

試験・評価方法 レポートの提出(85%)と毎回の授業の感想・意見等(15%)で評価します。

担当教員 坂上 ちえ子、中熊 美和、小亀 拓也、近間 由幸、宗田 健一、田口 康明、小林 朋子、木戸 裕子

開講場所 鹿児島県立短期大学 3号館第10講義室

開講期間 令和5年9月13日～9月22日(9月16、17、18日を除く)

開講時間 18時～21時10分(19時30分～19時40分:休憩)

単位数 2単位

成績発表時期 10月～11月

定員 50名

対象 ◆ 鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生

特記事項 ◆ 特になし

科目名 かがしま教養プログラム

授業概要 この講義では、鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローバルな視点から見たかがしま再発見」というテーマに基づき、リベラルアーツ教育を行います。また、地域の特徴ある分野について対象としていることから、特に、地域社会での活躍を目指す学生にとっては、充実した内容となっています。3日間の夏季集中授業で、講義とグループ学習を行います。ディベートなどを取り入れ、学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習します。

学習目標

- ①講義で提示される鹿児島独自の文化、自然、社会、産業、防災、食と観光などのテーマについて、内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。
- ②グループ学習により、テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い、グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。
- ③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。

以上の三つの学習目標を達成しなければならない。

試験・評価方法 グループ討論・発表60%（内容30%、発表態度15%、成果物15%）、レポート40%として評価を行い、それらを集計して最終評価とします。

なお、発表及びレポートを合わせて評価するため、どちらか一方が欠けた場合は、評価対象外とする。また、提出期限までにレポートを提出しなかった場合、評価対象外とする。

担当教員 県内7大学等の関係教員

開講場所 鹿児島大学

開講期間 令和5年前期8月下旬の3日間（集中授業）の予定

単位数 2単位

定員 県内7大学等の受講生150人

対象 ◆鹿児島県における大学等間の授業交流（単位互換）の参加大学等の学生
[大学の学生（専攻科生、大学院生は含まない）、短期大学の学生（専攻科生を含む）、高等専門学校の4年次生、5年次生及び専攻科生]

特記事項 ◆一般の方の聴講：不可
◆申込先：所属大学等
◆連絡先：鹿児島大学学生部教務課教務係 電話 099-285-7351

※コロナウイルス感染症等の影響で授業内容が変更となる可能性もありますので、ご了承願います。

科目名 かがしまフィールドスクール

授業概要 地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らし、防災などにかかわる地域・施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし、今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し、今後、地域の課題を解決していくための方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらの方策を実現する可能性について検討します。

この活動により、鹿児島の特徴と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローバルな素養」を身につけ、あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。

学習目標

- ①指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して、同地区の住民生活、商業活動、文化活動、防災等の特徴を把握し、選択したテーマに関する独自の問題を調査する。
- ②同地区等の課題解決のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。
- ③実地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。テーマ別に編成されたグループにおいて、これら三つの学習目標を達成する。

試験・評価方法 グループ討論・発表60%（内容30%、発表態度15%、成果物15%）、レポート40%として評価を行い、それらを集計して最終評価とします。

なお、発表及びレポートを合わせて評価するため、どちらか一方が欠けた場合は、評価対象外とする。また、提出期限までにレポートを提出しなかった場合、評価対象外とする。

担当教員 県内7大学等の関係教員

開講場所 テーマに応じて、グループごとに鹿児島県内各所に分かれる

開講期間 令和5年前期8月下旬、2泊～3泊または日帰り4日間（集中授業）の予定

単位数 2単位

定員 県内7大学等の受講生80人

対象 ◆鹿児島県における大学等間の授業交流（単位互換）の参加大学等の学生[大学の学生（専攻科生、大学院生は含まない）、短期大学の学生（専攻科生を含む）、高等専門学校の4年次生、5年次生及び専攻科生]
※夏季集中科目（かがしま教養プログラム）「グローバルな視点から見たかがしま再発見」を履修した学生を対象とする。

特記事項 ◆一般の方の聴講：不可
◆申込先：所属大学等
◆連絡先：鹿児島大学学生部教務課教務係 電話 099-285-7351
◆その他：宿泊経費等が5,000円程度必要になります。

※コロナウイルス感染症等の影響で授業内容が変更となる可能性もありますので、ご了承願います。